

教良木地区（上天草市・旧松島町）

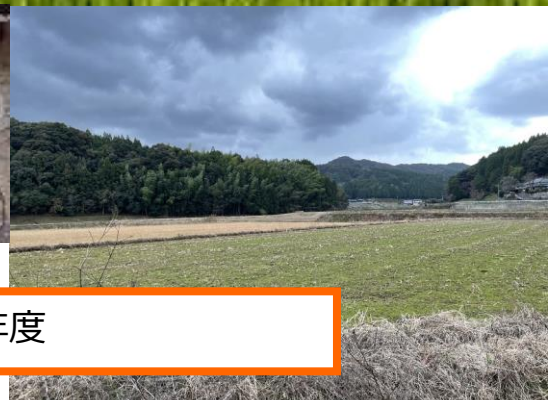
～小さな農村のみんな力を集結！！
「教良木」パワーで生産力向上～

キーワード

担い手づくり

農業所得向上

露地野菜



ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和3年度

1. 課題と将来像・ビジョンの内容

地区の「課題」と「将来像」

【地区の課題】

- ・担い手の確保。地区内だけでは十分に確保できない。
- ・担い手不足による耕作放棄地の増加。
- ・収益性向上のための水田から畑地への転換。



【地区の目指す姿】 = **ビジョン**

新たな担い手を確保すると共に、農地を集積し、必要に応じて畑地転換を行い、収益性をあげる

- (1) 幅広い農業展開のための機械整備
- (2) 高単価作物の導入
- (3) 農観連携の実施



【成果目標】

- ・かぼちゃ等露地地野菜の作付面積を1.5ha増加させる。
- ・ウォーキングイベントや販売イベント等を年1回以上実施する。

ビジョンの内容

(1) 幅広い農業展開のための機械整備

- ①畑作用機械（管理機等）を導入し、水田の畑作転換や施設園芸等、幅広い農業展開ができるよう農地の整備を行う。

(2) 高単価作物の導入

- ①エリア内で高単価作物としてかぼちゃ等の露地野菜や漬物加工用根菜類（しょうが、にんじん等）を導入する。
- ②かぼちゃや漬物等の加工品を地域の特産品として位置づけ、道の駅等で販売する。

(3) 農観連携の実施

- ①特産品の販売や観光イベント等を通じて来訪者を増やし、地域の活性化を図る。
- ②多面的機能直接支払交付金や中山間地域等支払事業等を活用し、景観向上に努める。

整備・導入内容

令和元年度	かぼちゃ実証圃設置、機械の導入（フレールモア、管理機）
令和2年度	かぼちゃの種、肥料、培土、精米機、シーラー
令和3年度	かぼちゃ苗、動力噴霧機、玄米保管庫

2. 教良木地区の現状

【農業者に関する状況】

・総戸数	308戸
・総人口	694人
・農家戸数	72戸
・農業者数	80人
・担い手数	47人
・65歳以上の就農者数	44人

【農地に関する状況】

(1) 面積区分

・水田	41.1ha
・畑（樹園地）	0ha

(2) 筆数

・水田	159筆
・畑（樹園地）	0筆

(3) 作付区分

・水田	早期水稲・WCS
・畑（樹園地）	かぼちゃ

(4) 耕作放棄地

あり

【基盤整備に関する状況】

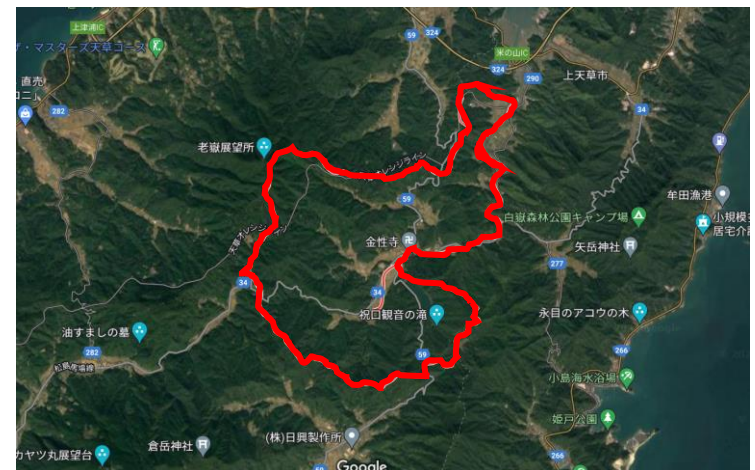
- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 耕作道路 | 幅員が2.0m未満が多く、大型機械の往来が困難。 |
| (2) 排水 | 土水路が多い。 |
| (3) 用水 | 水路から直接取水している。 |

■ 地区の現状

- ・地区の農業従事者は**65歳以上が過半数**を占めている。
- ・地区の**縁辺部等の農地は狭小で小型機械しか使用できず、効率的な農業が出来ていない。**
- ・耕作条件が悪いため、農地の汎用化ができず**水稲単作の作付けであるため、収益が思うように上がらない。**
- ・早期水稲1作のみの作付が主流であり、農地の一部では畑作転換を計画しているものの、**畑作用機械の導入が途上であるため、畑作面積の拡大に繋がっていない。**



農地集積加速化事業 平成25年度指定地区



©Google Map

(1) ビジョン策定に至ったきっかけ

高齢化による担い手不足を農地集積と畑作転換で打開したい

地区内の農家の9割以上は、後継者がおらず、担い手を確保するのが難しい状況にある。そのような中で、農地等の保全管理ができず、農地集積事業の対象エリアになっていない場所においては、耕作放棄地が増えている。また、早期水稲1期作のみで、収益性が上がらないため、畑作への転換が必要だと考えていた。

(2) ビジョン策定メンバーと手法

【メンバー】

「農事組合法人エコロジックファーマー」を中心とした、農家。

【手法】

上天草市の協力のもと、話し合いを重ねて合意形成を図った。



(3) ビジョン策定の流れ

現状と課題の抽出

集落の現状と課題について意見を出し合い、地区の現状を分析し、**共通認識**を持った。

明確な目的

農業所得向上を目的とすることを確認し、その対策として**畑作への転換**について話し合った。

具体策の検討

露地野菜の作付について、その品種や、作付を行う圃場の選定を行った。また、農地整備について具体的方策を検討し、整備に向けた計画を立てた。

合意形成

農業振興ビジョンの内容について検討を行い、最終的な確認を会議参加者で行い、参加者の**理解を得る**と共に、ビジョン策定後速やかに事業を行うための具体的な圃場等の確認を行った。

■ ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	平成30.8.1	・ 集落の現状や課題について話し合い	7人
2	平成 30.8.29	・ 集落の現状や課題について話し合い	6人
3	平成 30.9.12	・ 農業所得向上に向けた方針について検討	7人
4	平成 30.10.5	・ 農業所得向上に向けた方針について検討	6人
5	平成 30.11.6	・ 露地野菜の作付を行う圃場の選定	5人
6	平30.12.17	・ 露地野菜の作付を行う圃場の選定	6人
7	平成 31.1.16	・ 将来展望を実現する具体的方策として、具体的にどのように整備を行っていくか、検討	7人
8	平成31.2.4	・ 将来展望を実現する具体的方策として、具体的にどのように整備を行っていくか、検討	5人
9	平成31.3.1	・ 農業ビジョンの内容について検討	7人
10	平成 31.3.22	・ 農業振興ビジョンについて最終確認	7人



ビジョン検討会議の様子

(4) 重点ポイント① 担い手づくり のための 環境整備

法人に農地集積を行った圃場でも、場所によっては立地条件が悪く機械等が入ることができないような圃場もあった。このため、**多様な営農活動が展開できるような整備を行うことを検討**した。地域の担い手である農事組合法人が、効率よく農業を行うことができる環境整備を目指した。

(4) 重点ポイント② 農業所得向上 のための 畑地転作を具体的に計画

農地集積事業により、組合の圃場となっていた農地について、**どこでどのような畑作転換を行うのかを、ビジョン策定の段階で具体的に検討**。より**スムーズな畑作転換**を目指した。

ビジョン（1）幅広い農業展開のための機械整備

①畑作用機械（管理機等）を導入し、水田の畑作転換や施設園芸等 **幅広い農業ができるよう整備**。

共同で使う農業機械の導入で耕作条件の悪い土地を整備

管理機、フレールモア、歩行型草刈機を導入し、大型の機械が入ることのできない**ほ場の整備**等を行い、**水稲に向かない土地等を畑作に転換する準備**を行った。

②ワンストップで学校給食米を納品できる環境を整備。

上天草市全ての小中学校給食へ米を供給 安定的な販路を確保し、地域の子もたちへの地産地消教育にも寄与

精米機、シーラーを導入し、地区内で収穫された米を精米まで行い、直接納品する形式で、上天草市内全ての小中学校に米を供給している。上天草市の子もたちに給食で教良木の米を食べてもらうことによって、**地産地消・食育にも寄与**している。

また、**安定した販路を確保**することで、稲作を継続することができ、**耕作放棄地対策**にもつながっている。

ただ、現状の圃場の規模に対して法人としてのキャパシティーは限界の状況であり、担い手の育成と、更なる効率化が求められる。



精米機



白米選別機



上天草市内の小中学校に給食用のお米として出荷される白米

ビジョン（２）高価格作物の導入

①地区内で栽培できる高単価作物としてかぼちゃを導入。

令和3年度は3.2haにかぼちゃを作付

高単価作物として、かぼちゃの栽培を開始した。令和元年度は70a、令和2年度は2.1ha、令和3年度は3.2haである。年々少しずつ増やすことができている状況ではあるが、かぼちゃは種苗費が高く、コストがかかることが課題である。

また、年々高齢化が進む組合員にとって、かぼちゃの栽培管理は、労働面の負担も大きい。省力機械の導入等を行うことによって労力を軽減するとともに人件費を削減し、その結果として**収益性を上げる道を模索**する必要がある。

②酒米としての販路。

地域の米が、高付加価値がついた特産品純米吟醸酒「LIGHT PASS」に

天草四郎観光協会が主体となって行った、地域に根差した特産品開発の一環で、教良木松浦地区の米1,800kgを原材料として、純米吟醸酒1,400本が醸造された。天草初の日本酒「LIGHT PASS」として、リゾート施設「リゾラテラス」や道の駅上天草さんぱーる等で販売され好評だった。



令和3年度に収穫されたかぼちゃ

ビジョン（3）農観連携の実施

①観光イベント等での特産品販売で来訪者を増やし、地域の活性化を図る。

栽培したかぼちゃを特産品としてイベントで販売

ビジョン策定当初は様々な観光イベントでの特産品販売を検討しており、実際にウォーキング・イベント開催時にかぼちゃを販売し好評を得た。しかし、その後、新型コロナウイルス感染症の拡大時期と重なり、**計画していたイベントが中止になる等して、販売等を行うことはできていない。**

②教良木産米が、上天草市のふるさと納税の返礼品に。

地域を代表する特産品として教良木をPR

現在も教良木産の米は、上天草市のふるさと納税の返礼品に選ばれている。遠くは関東や関西からの申し込みもあり、新型コロナウイルス感染症拡大により、人の往来が制限される中、地域を代表する特産品として、米が地域の魅力を発信している。



ふるさと納税返礼品送付用の箱



ふるさと納税返礼品のお米に同封しているお手紙

振り返り・成果・今後に向けて

(1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①
～ビジョン策定時】

**課題を見極め現状を分析し
より具体的な計画を策定**

【取り組みが継続するためのポイント②
～取り組みの総括】

**安定的な販路を確保し基盤を安定させ
新しい作物等にチャレンジ**

(2) 成果

【成果目標】

- ・かぼちゃ等露地野菜の作付面積を1.5ha増加させる。
- ・ウォーキングイベントや販売イベント等を年1回以上実施する。

【結果】

- ・かぼちゃの作付面積：令和3年度3.2ha
- ・イベント：1度はかぼちゃの販売を実施
※その後は新型コロナウイルス感染症の拡大によりイベントの中止や参加見合わせの状況

【メンバーの声】

担い手の確保はまだまだだが、安定した販路を確保し、集まって農業を行うことで支え合える組織に

組合員の高齢化は年々進んでおり、若手と言える担い手は30代1人、40代1人でまだまだ厳しい状況は続いている。そのような中でも、耕作放棄地を増やさず農業をやっていくことができているのは、共同で農業に取り組み、機械を共有し、安定した販路である学校給食への米の供給を続けているからである。地域の学校給食に米を供給しているということは、地域の農家としての誇りでもあり、やりがいにつながるとも考える。

(3) 今後に向けて

高単価作物導入の収益確保

高単価作物であるかぼちゃの導入には、種苗代のコストを考えるとハードルがあるが、省力機械の導入等も考えて、収益性を上げることを目指したい。